

東濃中部地域新病院建設基本計画の概要

全体計画

(1) 診療科

医師の増員次第ですが、両市外への流出の多い循環器系疾患、新生物(がん)、糖尿病等の内分泌系疾患、筋骨格系、眼科系等及び妊娠分娩、小児系疾患の診療機能の機能強化を図ります。

【新病院の想定診療科】

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、皮膚科、リウマチ・アレルギー科、小児科、精神科、外科、血管外科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科

(2) 病床機能別病床数

現在の病床編成 (稼働病床)			新病院の病床編成		
高度急性期病床	東濃厚生病院	55床	高度急性期病床	1病棟	50床程度
急性期病床	土岐市立総合病院	150床	急性期病床	5病棟	250床程度
	東濃厚生病院	215床			
回復期病床	土岐市立総合病院	37床	回復期病床	2病棟	80床程度
緩和ケア病床		—	緩和ケア病床	1病棟	20床程度
(合計)		457床	(合計)	9病棟	400床程度

(3) 新病院の延床面積

施設規模は他同規模公立病院の1床あたり面積を参考に、延床 35,000 m² (400床換算で1床あたり 87.5 m²) ~ 37,000 m² (同1床あたり 92.5 m²) を目安とし、基本設計時に決定します。

敷地内にカーゲートのない 1,000 台程度 (患者用 400 台程度、職員用 600 台程度) の駐車場を整備し、敷地内または施設内に売店・アメニティ施設、調剤薬局の誘致を予定します。

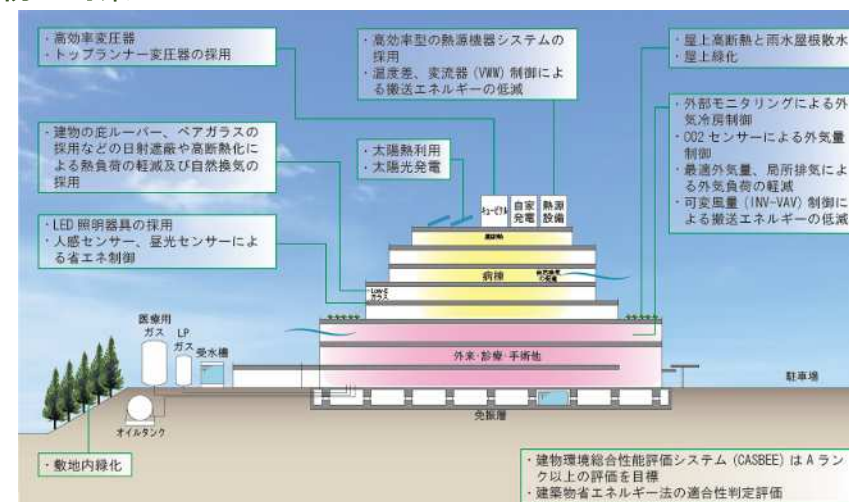
施設全体の整備方針 (部門計画)

部門	他部門との位置関係
外来部門	内視鏡部門、放射線部門、検査部門と近接させます。
病棟部門	手術部門、救急部門と動線が確保できる位置に配置します。
救急部門	外来部門、放射線部門、検査部門と近接させます。
手術部門	救急室からエレベーターで患者を搬送できる位置に配置します。
内視鏡部門	外来部門や放射線部門、健診センターとのアクセスを考慮し、救急部門から患者を搬送できる位置に配置します。
放射線部門	外来部門及び救急部門と近接させます。
検査部門	外来部門、救急部門と近接させ、手術部門との動線を確保します。
薬剤部門	夜間休日の処方しやすいように下層階に設置します。
リハビリテーション部門	利用者が多い回復期病棟のフロア及び外来周辺に設置します。

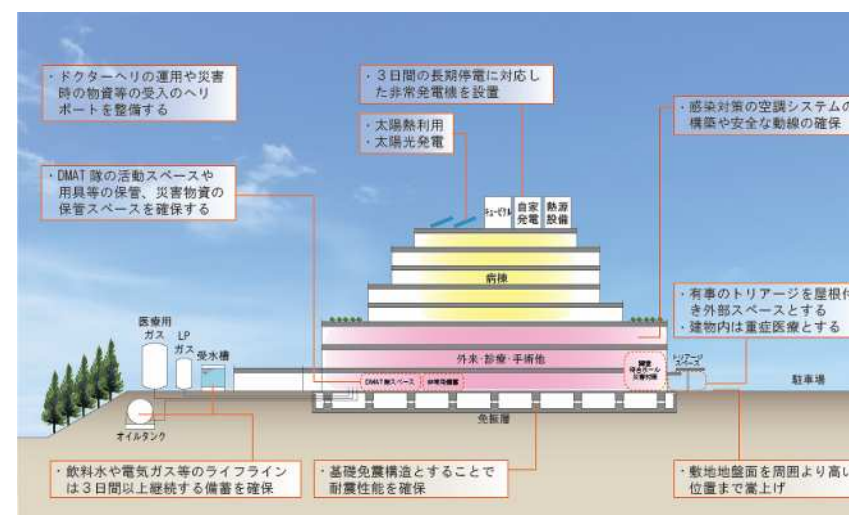
外来化学療法部門	薬剤部門との動線を確保できる位置に配置します。
人工透析部門	臨床工学部門との動線を確保できる位置に配置します。
臨床工学部門	人工透析部門と近接させ、手術部門との動線を確保できる位置に配置します。また、各部門との搬送動線を確保します。
栄養部門	外部からの食材搬入等が円滑に行え、病棟及び外来部門との動線が確保できる位置に設置します。
病診連携部門	総合受付の近傍に配置します。
入退院支援センター	病診連携部門の近傍に配置します。
健診センター	内視鏡部門との動線に配慮して配置します。
管理部門	総合受付近傍に医事窓口を設置します。その他の部署は外来、病棟に移動しやすい位置に配置します。
災害医療・DMAT 部門	(適所に DMAT 資材庫・DMAT 車両駐車場を設置します)
サービス施設	外来患者が利用しやすい位置に設置します。

設備整備方針

(1) 地球温暖化防止対策



(2) 災害対策



図はイメージです。